

# 第 53 回全国知的障害福祉関係職員研究大会

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル 6 階

## 助成事業の概要

本事業は、本年度で 53 回の開催を迎えましたが、今年度も例年どおり、本事業の企画・運営は、各地区会・地方会において持ち回りにて実施し、今年度は四国地区・高知県知的障害者福祉協会を中心に企画・運営を行いました。

本大会の参加対象は、全国に所在する知的障害関係の施設・事業所の支援員を主な参加者としており、3 日間にわたり研修会を実施しています。

本大会では、各プログラムを通じて日常における支援の見直しやスキルアップを図るとともに、新たな実践に取り組むきっかけや、種別を超えた仲間づくりなども目的としています。

今年度は高知県高知市の高知県立県民文化ホールを主会場とし、大会テーマの「新たな夜明けを土佐の地から～未来に引き継がなければならない大切なものとは～」のもと、平成 27 年 10 月 14 日（水）～ 16 日（金）の 3 日間にわたり全国より約 1,500 名の参加を得ることが出来ました。

## 事業の成果

大会 1 日目の全体会では、開会式、永年（20 年）勤続表彰（今年度の対象者は全国で 556 名、昨年度は 527 名）授章式に続き、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課長の田中佐智子氏による行政説明が行われました。

続いての、震災復興報告では福島第一原子力発電所から約 10 キロの所に事業所が在り、現在でも福島県外（群馬県）に非難している社会福祉法

人友愛会の寺島利文氏より被災時の状況から、現在の状況として絹織物や食品加工などの生産品の製作を通じた復興への取り組みをご報告いただきました。自助努力の必要性や有事における他方人との協定作りなどの重要性も話され、おわりに、今春にも福島県内に事業所を新設するとのお話もいただきました。

次に、1 日目最後のプログラムとして、「未来に引き継がなければならない大切なもの」とのテーマのもと岡田喜篤氏（社会福祉法人北海道療育園理事長）、宮本太郎氏（中央大学法学部教授）、山崎隆氏（高知県知的障害者福祉協会会長）の 3 名による鼎談が行われました。

宮本氏からは、日本の社会保障、障害者福祉を政治と経済の視点で丁寧にわかりやすくお話いただきました。また、岡田氏からは、医療や教育、福祉現場の視点において自ら体験された制度の変遷について知的障害がたどってきた歴史を中心にお話いただきました。

また、大会 1 日目の終了後には、参加者同士の交流を目的とした「情報交換会」が行われました。例年、情報交換会は設定定員を上回る申込みがありますが、今年度も、686 名もの申し込みがありました。会場内は参加者の熱気で溢れ、高知の郷土料理の藁焼きのカツオや銘酒なども振る舞われ大変な盛況でした。

大会 2 日目は、テーマごとに分科会「土佐の六策～あるべき姿を見据えて～」が設定されました。各分科会に共通する横断的なテーマである「尊厳」「幸せ」「豊かさ」「本人主体」等々に触れ、そもそも論が深められるような内容を目指し、以下の

6つのテーマが設定され、どの分科会もそれぞれのテーマに沿った講演や研究発表などが行われました。

#### 第一分科会

「育（はぐくむ）」～人を育み慈しむために～

#### 第二分科会

「生（いきる）」～いきいきと生きるために～

#### 第三分科会

「暮（くらす）」～自分らしく生きるために～

#### 第四分科会

「働（はたらく）」～豊かな人生を送るために～

#### 第五分科会

「老（おいる）」～幸せな老いを迎えるために～

#### 第六分科会

「輝（かがやく）」～人として、福祉従事者として～

大会3日目の最終日には、四国八十八カ所 第39番札所延光寺長老の増田全英氏より「四国遍路とお接待」と題した特別講演Ⅰが行われ、続いで特別講演Ⅱでは「出番に備えよ」とのテーマで地元高知県出身の直木賞作家山本一力氏による講演が行われました。

その後は、閉会式において翌年の北海道大会に向けたPRなどがなされ、全3日間の大会は無事に終了しました。

## 成果の広報、公表

本大会の報告は、本会の機関紙「愛護ニュース」平成27年12月号（毎月1日発行）において、大会3日間を通じた終了報告を掲載し、関係機関および会員施設・事業所の約6,600ヶ所に配布しました。

また、本会の月刊誌『さぼーと』2015年12月号においても、大会特集ページを設け、3日間にわたるプログラムの詳細を掲載しました。

## 今後の展開

平成28年度の今大会は、第54回大会として北海道札幌市において開催を予定しています。

現在、開催県の北海道内においては、既に実行委員会が組織され、実行委員会も数回にわたり開催されています。大会のメインテーマや3日間のプログラム構成、分科会におけるテーマ設定や講師の選定などが具体的な検討がなされています。

次回第54回大会では、「次なる時代を築こう～フロンティアスピリッツが宿る北の大地から～」との大会テーマを設定し、例年通り3日間の予定において開催する予定としています。

来年度においても、これまで同様、現場において日々真摯に利用者の方々と向き合い支援を行う施設・事業所の職員の皆さんが、本研修会を通じて、多くの仲間と交流を図りながら、現在の知的障害福祉が抱える課題や身近な支援上の疑問などを共有するとともに、講演や先駆的な実践などの発表から、多くを学び、より大きな目的と希望を持って障害福祉の仕事に携われるきっかけとなるよう、意義ある大会を目指し、引き続き企画・運営を行っていきたいと考えております。